

飼育員 日誌

長野・須坂市動物園



スザッチ

フンボルトペンギン

ペンギンと聞くと、寒い南極に生息しているイメージがあると思います。しかし、須坂市動物園にいるフンボルトペンギンはチリやペルーの海岸沿いに生息するペンギンです。温暖な場所に生息するフンボルトペンギンが、長野の冬を乗り切れるのか…、実はペンギンの体に秘密があります。一つ目は皮下脂肪です。

ペンギンたちは秋になるとたくさん食べて、体に厚い皮下脂肪をためます。冷たい水に入っても断熱材になり、冷たくありません。皮下脂肪によって、冬のペンギンはふくよかな見た目になります。

二つ目は羽根です。ペンギンの羽根は他の鳥と比べて短く、硬い素材できています。さらに羽と皮膚の間に空気を入れることで、空気が断熱材の役割を持ち体温を逃がさない仕組みになっています。ペンギンが泳いでいるときに、その空気が背中からぷくぷくと出てきます。

皮下脂肪と羽根のおかげで、ペンギンたちは寒い冬を乗り切ることができるのです。

(フンボルトペンギン担当
駒村紅杏)

皮下脂肪と羽根に秘密



フンボルトペンギンの雌の「ピノ」(須坂市動物園提供)